

Hiroshima City University

Graduate School of Art

広島市立大学大学院案内 2009

芸術学研究科



広島市立大学は、広島市の都市像である「国際平和文化都市」にふさわしい大学づくりを目指して、1994年（平成6年）4月に国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部構成で開学しました。この3学部における学術研究の高度化を図るとともに、国際的かつ先端的な専門教育を行うため、4年後の1998年（平成10年）にそれぞれの学部に基づき国際学、情報科学、芸術学の3研究科からなる博士前期課程（修士課程）を、さらに2000年（平成12年）には博士後期課程を設置しました。現在、社会人や留学生を含む多様な学生が学ぶ大学院として成長し、2008年（平成20年）3月までに1084名の博士前期課程修了者、63名の博士後期課程修了者を輩出しています。

本学大学院における教育研究の目的は、最先端の学問領域を究め、知性と感性と創造性を研ぎ、多様化する社会のさまざまな分野で活躍できる人材を育成することです。そのために、3研究科それぞれの専門分野における高度な研究につながる授業科目群と、学際的な知識を身につけ調和のとれた人間形成を図る授業科目群「21世紀の人間と社会」を開設していることが特色です。

このように本学大学院は、あらゆる活動が高度な知識や情報を直接的な基盤とする知識基盤社会において、指導的役割を果たしうる能力と資質を備えた教育者、研究者、そして高度専門職業人の育成を目指しています。

広島市立大学長
浅田 尚紀

Contents

芸術学研究科	2
博士前期課程	
全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会	4
絵画専攻	7
彫刻専攻	8
造形計画専攻	9
博士後期課程	
総合造形芸術専攻	10
大学院生の研究活動紹介	12
芸術学部	13
美術学科	15
デザイン工芸学科	16
芸術学部・芸術学研究科の施設	17
交通案内	17

芸術学研究科

Graduate School of Art

芸術創造活動を自ら行う芸術家の養成と、
地域文化振興のための人材養成という課題に応え、
高度な教育・研究を実践します。

教育研究の特色

1. 近年、急速な縮退を危惧されている日本独自の伝統的な美術、工芸等の芸術文化に対し、古典研究を重視することにより貴重な伝統の継承を行うとともに、現代の視点に立って新たな美術、工芸等の創造に寄与すべく、21世紀を展望した美術、工芸教育・研究を行います。
2. 技術革新により多様に展開される新素材、新技法への研鑽を深めるとともに、急進展を遂げつつあるコンピュータをもととした多岐にわたる表現メディア、特に映像メディアへの研究に取り組み、新たな造形表現の創出のための研究を行います。
3. 単科大学が多い芸術系大学のなかで国際学部、情報科学部との3学部構成という特色を活かし、これまで教員の共同研究等他学部との連携による教育・研究を実施してきたところであり、大学院においても、引き続き国

際学研究科及び情報科学研究科との連携を図り、学際的な教育・研究を実施します。

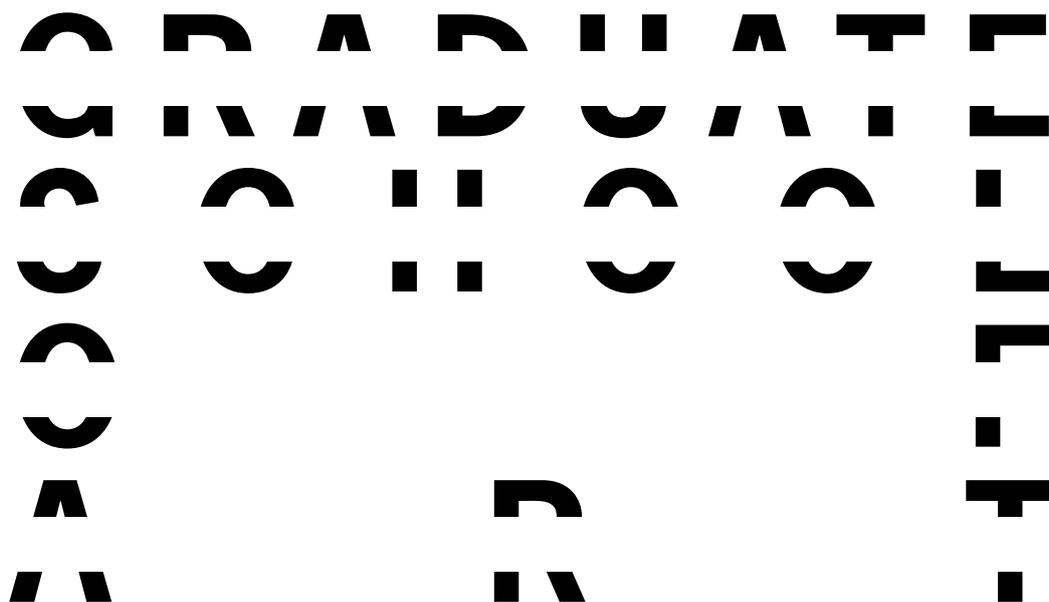
4. 全人格的人間形成を目指した教育を通じて、豊かな学識を養い、論理的な思考力を鍛えることにより、造形上の創作作品を通しての感性的な自己表現のみならず、著作物等を通しての文章表現など多様な表現力を有する芸術家の養成を行います。
5. 特に、後期課程においては、各専門領域における基礎の探究を基に領域を超えた横断的な研究を行うとともに、各領域の実技を踏まえより高度な理論的習熟を目指し、幅広い表現能力の開発を図ります。
6. 本研究科が修了認定者に授与する学位は、前期課程は「修士（芸術）」、後期課程は「博士（芸術）」となります。

修業年限

博士課程の修業年限は、前期課程は2年、後期課程は3年とします。ただし、優れた研究業績をあげた者については、それぞれ1年以上の在学をもって修了を認めることがあります。

芸術学研究科の構成

		専攻	募集定員	領域	詳細
博士前期課程	芸術学研究科	絵画専攻	10人	日本画領域 油絵領域	P.7
		彫刻専攻	4人		P.8
		造形計画専攻	16人		P.9
		専攻	募集定員		詳細
博士後期課程	芸術学研究科	総合造形芸術専攻	6人		P.10



全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会

Graduate School of International Studies | Graduate School of Information Sciences | Graduate School of Art

学際的な視野から、明日の地球社会を見つめる

次代を担う若者たちが、専攻する専門分野の既成の枠組みを越えて、常に、新鮮な視点、多様な問題意識、柔軟な判断力を持ち、人間と自然への畏敬の念を培いつつ、21世紀に役立つ調和の取れた学問研究を行える教育・研究体制を整えることが必要です。

このために、全研究科共通の選択必修科目群「21世紀の人間と社会」を編成。この科目群に選定する10科目の講義内容は、人文科学、社

会科学、自然科学、芸術学など、既存の縦割りによる学問領域を越えて、より広範な学際的領域で編成されています。学生たちは、これらの科目群を通してさまざまな分野の知的情報のエッセンスに触れることにより、学問研究に対するバランス思考と柔軟な批判精神を養い、修得する専門知識をリチャップルする機会が得ら

れます。さらに、既成の学問への固定的なイメージを脱し、旺盛な知的好奇心と学際的関心を広げて、21世紀を生きるための新たな知のパラダイム構築へ向かわせる進取の気概と創造的精神の萌芽が期待されます。

平和研究

国際平和の構築の現実的方法として、国連による集団安全保障の方式がこれまで最善のものと考えられてきました。国連による現代の平和構築の企てや国連改革の問題点、および国際刑事裁判所についても検討します。

非常勤講師 藤田 久一

日本論

和血には角血があり、洋血は丸いものが原則であるのはなぜか、ル・ルオ・ゲーランが信じられない形といった和服の形はどこからでてきたのか、外国では円錐型の塔として作られるストウパが日本にくるとなぜ板碑としての卒塔婆になるのか、居酒屋でだされる枡酒に驚嘆する外国人は異文化について無知なのか、そういった素朴な疑問から「日本の形」について考え、最終的には火山列島に最初にすみついた人々の原初の宗教的感性にまでさかのぼります。

非常勤講師 篠田 知和基

地球社会論

地球社会論はすでにできあがった学問ではありません。地球的規模で起こっている諸問題を論じ、その解決方法を見いだす創造的な講義にしたいと考えます。

非常勤講師 中島 潤

情報と倫理

インターネットが地球を覆い尽くし、情報がすべてを支配する今日のデジタル世界においては、本来なら人間の営みを助けるはずの技術が、これまでには見られなかった激しさで私たちに生活スタイルの変革を迫り、さらには人間そのものの質にまで影響を与えようとしています。本講では、「情報」技術開発が広く人間の思考形態や行動様式に及ぼす影響とそれがもたらす結果について、「芸術」活動などに見られる人間本来の特質を理解すると同時に国民性の相違をも踏まえ、「国際」的な視点に立って講述します。

非常勤講師 市川 忠男

開設授業科目

科学史

歴史的展望において宇宙観と人間観について論じ、西欧の学問の歴史全体の見直しと、その中で科学の位置づけを図るとともに、現代科学のもつ制度上、内容上の特質を論じます。

非常勤講師 村上 陽一郎

人間論 A (人文・社会科学)

人間は歴史的・社会的・文化的・教育的存在である。この前提に、人間学的視点から、また人類学的視点から人間論を展開することにします。これらの視点は、教育学的視点に密接な関係があります。そこで、人間論を展開することは、人間と歴史・社会・政治・文化・経済との関係を探求することになります。現代社会は加速度的に急激な変化をしており、人間の本質、生き方、在り方を探究することは、極めて重要な意味を持ちます。

非常勤講師 上寺 常和

人間論 B (自然科学)

人間社会と調和する科学文明社会を求め、合理主義的な科学的知識ではなく、人間を尺度として計ることのできる世界の実現について、自然科学、医学の分野から論じます。

未定

情報と社会

私たちが生活している社会は情報化社会、電子社会等と呼ばれて久しい。現状では情報化、ITと称されている電子技術、情報通信技術によるコンピュータおよびそれらを結び合うネットワークシステムが重要な社会基盤と考えられ、それらの発展により私たちの生活や社会情勢が大きく変化しつつあります。本講義では経済、法制度、倫理、文化、国際関係等が情報関連技術の発展により、どのような問題が生じるのか、今後どのように対処すればよいかを検討します。すなわち情報化の将来像のみならず、どのような社会像が、如何なる理念の下にデザインすれば良いのか、現状での分析とその問題点も含め具体的な方法を論じます。

非常勤講師 橋 啓八郎

道具論

道具がどのような存在であるかを論じます。道具存在論、道具がひらく文明と文化の歴史、過去と現在、未来論、形態と機能、美意識の国際比較、美術、工芸とインダストリアルデザインとの違いなど、道具を使う立場、つくる立場、考える立場、商う立場にとっての道具のありようの見方を論じます。

非常勤講師 栄久庵 憲司

都市論

グローバル化やマルチメディア技術の普及とともに都市はますます不可視となってきました。機械化、ネットワーク化する都市は、他方で生命体としての人間のエコロジー回帰を促しています。そもそも都市とは何だったのか、歴史の原点に遡り、かつ未来都市を構想しつつ、また視野を広く地球規模に拡げて、20世紀のひとつの象徴的な都市広島においてこそ論じなければならない21世紀における人間と都市について講じます。

(オムニバス形式) 非常勤講師 杉本 俊多
非常勤講師 岡河 貢
非常勤講師 千代章一郎

芸術学研究科 博士前期課程

博士前期課程必修科目

造形総合演習

修了制作品に係る制作意図、背景、技法、素材などに関する問題意識に基づき、研究対象となる範囲を絞り込みます。そして研究テーマを自分で設定し、文献や関連資料を調査、収集し、深く読み込んだうえで、論理性と実証性を備えた論文を組み立て執筆します。

教授 若山 裕昭
教授 大井 健二
教授 関村 誠
准教授 加治屋健司

専門語学演習（英語）A

英語を用いて、美術に関する議論を理解し、意見を発表する能力を身につけることを目指します。美術に関する英語の文章や講演を理解して、英語特有の議論の立て方について学ぶ。作品を記述したり、プロジェクトを説明したりする技術を習得します。

准教授 加治屋健司

博士前期課程選択科目

造形応用特別研究

国際的視野に立ち、地域の文化振興を担う活動を実践していくことで、具体的・実質的な創作活動を行えるプロデュース能力を養成し、芸術分野の人材を育成します。学外組織との連携による地域連携活動、地域貢献を目的とした芸術分野のボランティア活動、海外での創作発表や海外研究者との共同作業を通じた国際連携活動など、各種プロジェクトを自ら創造的に企画し、創作活動の幅を広げます。

教授 若山 裕昭ほか

専門語学演習（英語）B

英語を用いて、美術に関する議論を理解し、意見を発表する能力を身につけることを目指します。美術に関する英語の文章や講演を理解して、英語特有の議論の立て方について学ぶ。作品を記述したり、プロジェクトを説明したりする技術を習得します。

准教授 加治屋健司

博士前期課程基礎理論系科目

美術史特講（日本）A・B

江戸の洋風画から明治洋画、そして近代日本の油彩表現にいたる絵画史を、先覚画人の業績、作品と生涯、著作、談話、とりわけその画論を検討し、遠近法、明暗法、質感描写、色彩などの理解と習熟の研究を通じて、日本人の視覚の近代変革を考察します。

教授 大井 健二

美術史特講（東洋・工芸）A・B

仏教美術史。アジア各地の仏教美術を鑑賞し、造像様式の変遷をたどります。
美術工芸史。当時の東アジア及びわが国の情勢を踏まえて、正倉院宝物の鑑賞、概要、特質の3項目に分けて詳述します。

非常勤講師 未 定
非常勤講師 阪田 宗彦

美術史特講（西洋）A・B

西洋美術史のなかでも、とくに19世紀から20世紀に焦点をあてる。美術史を編年的に理解するのではなく、美術的思考の変遷としてとらえなおしていきます。美術史とは、社会に対応する人間の目と思考の文化史でもあるのです。

非常勤講師 谷藤 史彦

美学特講 A・B

ものを視ること、創ることの意味について問いかけ、反省的考察を深めることは、芸術制作にたずさわる者の精神的支柱となります。古代から現代に至る美学史の中の基本的諸問題をイメージの受容と創造の態度に引き寄せつつ検討することを通じて、現代の多様な造形活動のあり方を哲学的見地から基礎付けます。

教授 関村 誠

美術史特講（現代）A・B

1945年から2000年までの美術を、アメリカとヨーロッパの動向を中心に考察します。作品が制作された歴史的・社会的な文脈の理解に重点を置きながら、第二次世界大戦後の美術と社会の関係を検討します。

准教授 加治屋健司

取得可能な教員免許状

- ・中学校教諭専修免許状（美術）
- ・高等学校教諭専修免許状（美術）
- ・高等学校教諭専修免許状（工芸）

絵画専攻

Painting

古典作品の研究を通して、個性的な創作力を育成

教育研究内容

絵画専攻では、日本画と油絵に関する教育・研究を行います。

日本画では、古典作品の表現、技法及び材料の理解と造形感覚を修得させ、各自の現代における個性的な創作力の育成を図ります。教育課程の編成にあたっては、各人の個性的な創作力の育成を主体とした課程と、創作力の育成並びに古典模写を通して技法や材料の研究を深める課程の二本立てとし、多角的な指導を行います。

油絵では、油彩の技法及び材料の理解と実践による造形感覚を修得するとともに、西洋画の絵画構造や理論について研究し、各自の個性的な創作力の育成を図る。教育課程の編成にあたっては、西洋絵画の造形のあり方と各人の個性的な創作力の育成をする課程と、版画造形を含む現代における西洋絵画造形技法や材料の研究を深め個性的な創作力の育成をする2課程により編成し、多角的な研究指導に配慮します。

開設実習・演習・講座等

実習内容	担当教員
日本画研究Ⅰ 制作主体のカリキュラムで、材料・技法等の理解と造形感覚を修得し、個性的な創造力の育成を図るとともに精神性の大切さを考えます。	教授 西田 俊英 教授 藁谷 実
日本画研究Ⅱ Ⅰにおける成果を踏まえ、さらなる展開を図ります。	
日本画研究(含古典研究)Ⅰ 制作と合わせて模写による古典研究を行います。高度な古典模写を通して、技法や材料の研究を深め、個性的な造力の育成を図るとともに精神性の大切さを考えます。	教授 倉島 重友 教授 北田 克己 准教授 佐々木 正
日本画研究(含古典研究)Ⅱ Ⅰにおける成果を踏まえ、さらなる展開を図ります。	
油絵研究Ⅰ 制作主体のカリキュラムで、油彩の技法及び材料の理解と実践による造形感覚を修得し、個性的な創作力の育成を図るとともに美術のあり方を考え、自己確立を図ります。	教授 堀 研 教授 大矢 英雄 准教授 森永 昌司 講師 諏訪 敦※
油絵研究Ⅱ 1年次における成果を踏まえ、さらなる展開を図ります。	
油絵研究Ⅰ(含版画) 制作主体のカリキュラムで、版画ならびに現代における油彩の技法及び材料の理解と実践による造形感覚を修得し、個性的な創作力の育成を図るとともに美術のあり方を考え、自己確立を図ります。	教授 友安 一成 教授 吉井 章
油絵研究Ⅱ(含版画) 1年次における成果を踏まえ、さらなる展開を図ります。	
演習内容	担当教員
日本画材料技法演習 創作実技研究に必要な材料及び技法について歴史的・理論的分析を行うとともに、創造的な表現材料及び技法を研究します。	非常勤講師 手塚 雄二 教授 西田 俊英
油絵材料技法演習 油絵の創作研究に必要な表現材料(支持体、素地、展色材、顔料など)及び表現技法について、歴史的・理論的分析を行うとともに、創造的な表現材料及び技法を研究します。	非常勤講師 歌田 真介

※授業科目の概要および担当教員については、平成21年度予定のものです。



彫刻専攻

Sculpture

高度な技術を磨き、独創的・多角的に研究指導

教育研究内容

学部で修得した基礎的技術を一層高度な芸術性の高いものとするため、塑像、木彫、石彫、金属等の各工房に分かれ、独創的な彫刻の研究を深めます。教育課程の編成にあたっては、主要な素材、技法の種別にしたがって2課程により編成し、多角的な研究指導に配慮します。

開設実習・演習・講座等

	実習内容	担当教員
彫刻研究 A I	学部で培ってきた塑造を核とした彫刻的造形力、精神性の基礎をより深く追求し、さらに石彫・木彫、テラコッタを中心とした実材彫刻の多様な表現方法を学び、彫刻概念の幅を広げるとともに、その中で個性的な彫刻制作を研究します。	教授 前川 義春 (兼任) 教授 伊東 敏光
彫刻研究 A II	A I で学んだ彫刻的要素をもとに、さらに展開と探究を進め、室内や野外の空間における彫刻の効果的な在り方をさぐり、個性ある彫刻表現の確立をめざします。	
彫刻研究 B I	学部で培ってきた塑造を核とした彫刻的造形力、精神性の基礎をより深く追求し、さらに金属、木彫、ミックスドメディアを中心とした実材彫刻の多様な表現方法を学び、彫刻概念の幅を広げるとともに、その中で個性的な彫刻制作を研究します。	教授 伊東 敏光 着任予定教員
彫刻研究 B II	B I で学んだ彫刻的要素をもとに、さらに展開と探究を進め、室内や野外の空間における彫刻の効果的な在り方をさぐり、個性ある彫刻表現の確立をめざします。	
	演習内容	担当教員
環境造形演習	建築物や自然環境の中で、彫刻をより効果的に存在させるためには、彫刻とそれととりまく環境との相互関係に配慮が必要となってきます。また現在、環境そのものを高度に造形化できる人材が求められています。ランドスケープ等も含め環境造形全般についての意識を高め、演習を通して伝統的なものから現代のものまでを学びます。	非常勤講師 北郷 悟 教授 前川 義春 教授 伊東 敏光

授業科目の概要および担当教員については、平成 21 年度予定のものです。



造形計画専攻

Design and Industrial Arts

「高次元の生活文化の創造」を基盤に新たな原型を創出

教育研究内容

デザイン並びに工芸の使命である「高次元の生活文化の創造」を基盤に据え、永年わが国に培われてきた独自の美意識の存在を探究するとともに、デザイン、工芸の各専門領域を深く掘り下げ、また両領域にまたがる課題への総合的な視点に立った新たな原型の創出を目的として、より高度な専門分野での造形研究を行います。教育課程の編成にあたっては、多様化、多角化する生活文化や社会環境を構成する造形のあり方をデザイン、工芸両分野の総合的な視点から考察することに狙いを定め、生活社会を取り巻く造形分野にまたがる諸問題、諸課題への理解と認識を深めるとともに、各造形領域における新たな造形表現の創出と具現化に向けた指導に留意します。そのため、分野の異なった複数の指導教員の指導を受けることも可能な科目編成を行い、従来の固定したデザイン、工芸の分野、領域に拘泥しない新たな造形教育、造形研究を目指します。



入江早耶
《ソニー富士》2008
14.8 × 10.0cm、20.0 × 14.8cm
往復はがき、半紙、プリントゴッコ
(Hiroshima Art Project 2008 “CAMP ベルリン” にて展示)

開設実習・演習・講座等

実習内容		担当教員
造形計画研究Ⅰ	基礎的な素材の把握と様々な造形表現をもとに、デザイン、計画系分野における技術革新や表現メディアの進展に対応したより高度で多様な造形表現研究と、工芸、実材系分野におけるわが国独自の表現技法の修得と素材研究及び新たな表現法の研究を、各々の研究テーマ及び研究計画に沿って綿密に関連させつつ研究指導を行います。	造形計画専攻担当全教員
造形計画研究Ⅱ	Ⅰにおける修得をもとに、さらなる展開と探求を進めて、その到達を計画及び制作としてまとめあげます。	
演習内容		担当教員
現代美術特別演習	現代美術の演習とその作品の言語構築を通して、自らプレゼンテーション、キュレーションのできるアーティストやキュレーターを育成します。アートプロジェクトの設計や運営、アートマネジメント（芸術と社会との接点を開発し、芸術家と市民を仲介するなど芸術の社会展開を図る活動）など国内外での実践活動を通じて研究指導を行い、研究を深めていきます。	教授 大井 健次 准教授 鰐澤 達夫 准教授 柳 幸典
視覚造形演習	視覚伝達デザイン分野を軸に、古代壁画から現代のマルチメディア・アートにいたる視覚造形を、その歴史的な背景から概説するとともに、描画技法やイラストレーション、映像やコンピュータグラフィックスの演習を通じて、その応用や新たな展開を探ります。	教授 及川 久男 (兼任) 教授 大井 健次
メディア造形演習	高度に整備されたコンピュータ環境を活かし、多様なメディアを用いた、五感すべてに訴えかける芸術活動の可能性を探索するため、コンピュータグラフィックスによる映像表現を中心にしたバーチャル環境を軸に、新しいアートのカテゴリー創出の可能性を探ります。	教授 中嶋 健明 准教授 笠原 浩
立体造形演習	プロダクト、機器デザイン分野を中心に、人とモノの関係を多視点から考察し、その背景となる社会環境、創造環境について概説するとともに、高度に整備された造形工房、コンピュータ環境を活かした思考及び造形の実験の場として、個の創造性を高め、人とモノとの関係における新たな表現の創出を目指します。	教授 服部 等作 准教授 吉田 幸弘
金属造形演習	金属素材の多様性を歴史的な視点から考察し、国内外の様々な形態の彫鍛金技法への総合的応用を概説するとともに、現代の造形分野における金属造形存在意義を社会と地域との関連性を模索しながら、金属造形に必要な発想法、表現法、造形法を演習します。	教授 若山 裕昭 教授 南 昌伸 准教授 永見 文人
漆造形演習	古くから人間生活と深い係わりを持つ漆に関し、その沿革、採取、性質、精製、用具材料、多岐にわたる技法等を概説するとともに、漆がもたらす美の典型について、思考実験を通して探り出します。	准教授 大塚 智嗣
染織造形演習	数千年におよぶ染織工芸の歴史と伝統を踏まえつつ、現代の多様化したテキスタイル分野を広い視点でとらえています。伝統的な染織作品からファイバーアート、さらにはコンピュータグラフィックスとも深く関連するテキスタイルデザインまでおよぶ造形表現への発想から展開までを演習します。	教授 藤本 哲夫 准教授 倉内 啓

授業科目の概要および担当教員については、平成21年度予定のものです。

芸術学研究科 博士後期課程

総合造形芸術専攻

高度な創造・表現の技術と理論を追求し、領域を超えた識見を養成

Fine Arts and Art Theory

教育研究内容

前期課程は各専攻領域を中心に芸術表現の研究が行われていますが、後期課程では各専攻の内容を深化させるとともに、各領域を横断する研究や理論的研究も含めて、より深く総合的な教育研究を行います。

この意味から、後期課程の教育研究組織は、前期課程のように複数の専攻に分割する構成を取らず、総合造形芸術専攻の1専攻とします。

博士後期課程 理論系科目

美術特講

現代の芸術文化の状況に組み込まれ、さらに新たな文化創造に寄与していく造形作家は、文化を成立させている基盤とそこでの人間の感性の特質を捉えつつ、創造活動のあり方に対して批判的に検討を加えていかなばならない。それによって、作家は自らの制作の精神的基礎を固めることができる。こうした思索の深化と批判精神の練成に向けて美学・哲学の諸問題を考察します。

教授 関村 誠

日本美術史特講

近代化の歩みの中で日本近代美術史の内実を考察します。特に日本油彩画の展開を浅井忠(1856-1907)、黒田清輝(1866-1924)、および岸田劉生(1891-1929)、小出権重(1887-1931)、さらに藤田嗣治(1886-1968)、豊光(1907-1946)の事例において、作品と史料に基づいて検討し、また、美術学校という教育制度や美術を取り巻く社会的条件についても論究します。画家の執筆した文章や回想談を読み深めます。

教授 大井 健二

西洋美術史特講

ルネサンスやバロックなど近代美術や、ジャポニズムや写真の誕生など19世紀末西洋文化の転換点、そして20世紀初頭の革新的表現などモダニズムを、その思想の背景やその表現の方向性から深く探っていきます。また、20世紀の建築、思想、美術において重要と思われるトピックスを掘り下げて考えます。高層建築やインターナショナル・スタイルなどモダニズム建築論や、現代芸術に欠かせない身体論、空間主義や抽象表現主義など戦後美術論、ポップアート以後の現代美術論などを身近な美術として考察します。

非常勤講師 谷藤 史彦

東洋美術史特講（彫刻・工芸）

欽明朝に公伝した仏教は、二百年後の奈良時代、天平勝宝四年（752年）に東大寺大仏の開眼が行われるまでに成熟しました。以来、平安、鎌倉、室町と時代の移り変わりとともに、浄土、密教、禅など新たな多様な相を加えていき、これらを背景に調製された仏教工芸品は、素材、制作技法、造形意匠など実に多様多様な内容を持ち、わが国の工芸品の主流を占めているといっても過言ではありません。本特講は、上代以来、わが国で展開した仏教工芸の諸相を詳述して個々の作品に検討を加え、わが国の工芸の流れの一端を把握しようとするものです。常時、スライドもしくはビデオを使用します。

非常勤講師 阪田 宗彦

デザイン特講

近代デザイン史における時代背景、思想、理念の形成、運動の展開をふまえ、高度化し、かつ、クロスオーバーしつつ展開される現代の造形表現の発展形態を探るとともに、新たな表現と創造の役割と可能性を探求します。

教授 大井 健次

現代美術史特講

1945年から2000年までの美術を、アメリカとヨーロッパの動向を中心に考察します。作品が制作された歴史的・社会的な文脈の理解に重点を置きながら、第二次世界大戦後の美術と社会の関係を検討します。

准教授 加木屋健司

授業科目及び担当教員は平成20年度のものです。

開設実習・演習・講座等

	内容	担当教員	
創作総合研究Ⅰ・Ⅱ	それぞれの実技系教員は、学生の研究領域のテーマに応じて、分担または合同で実技制作の研究指導を行います。 Ⅱでは、Ⅰにおける成果を踏まえ、さらに作家として自立的で高度な創造的製作の素質を養成するための研究を行います。	<p>絵画領域 日本画研究 日本画の伝統技法及び材料等の理解をより一層深め、個性的な創造力の育成と精神性の確立に向けて指導します。</p> <p>油絵研究 西洋画の絵画構造を基盤に、油絵の技法及び材料の理解をより一層深め、高度な創造的製作の資質の確立を目指して指導します。</p> <p>彫刻領域 彫刻研究 作品の創作、研究を通して、高度な彫刻的造形力及び精神性を養います。塑造、石彫、木彫、金属、プラスチック、ミクストメディア、テラコッタなど、専門的素材研究の中から、その技法及び表現を探究させるよう指導します。</p> <p>造形計画領域 デザイン研究 技術革新や表現メディアの進展に対応した、より高度で多様な表現について、各専門分野との連携を保ちつつ、研究指導を行います。</p> <p>工芸研究 実材系分野である工芸において培われてきた、わが国独自の表現法の修得と素材研究及び新たな表現方法について研究指導を行います。</p>	<p>教授 倉島 重友 教授 西田 俊英 教授 藁谷 実 教授 北田 克己 准教授 佐々木 正</p> <p>教授 堀 研 教授 友安 一成 教授 吉井 章 教授 大矢 英雄 准教授 森永 昌司</p> <p>教授 前川 義春 教授 伊東 敏光 着任予定教員</p> <p>教授 大井 健次 教授 服部 等作 教授 中嶋 健明 教授 及川 久男 准教授 鰐澤 達夫 准教授 柳 幸典 准教授 吉田 幸弘 准教授 笠原 浩</p> <p>教授 若山 裕昭 教授 藤本 哲夫 教授 南 昌伸 准教授 大塚 智嗣 准教授 永見 文人 准教授 倉内 啓</p>
	この研究では、実技系と理論系の教員が共同で研究指導にあたります。その指導方法は、学生の研究志向に応じて、各芸術ジャンル及び美学、芸術学、美術史の理論領域を横断的に行います。研究指導にあたっては、絵画領域（日本画・油絵）、彫刻領域、造形計画領域（現代表現・視覚・立体・メディア・金属・漆・染織）の中から、2つ以上の異なる研究領域のテーマを選択・設定します。	上記実技教員及び	
	特別研究 領域横断 特別造形総合演習Ⅰ・Ⅱ	この演習では、理論系教員と実技系教員が共同で研究指導にあたります。その指導方法は、学生の研究志向に応じて、作品の理論研究と創造的製作研究との二つの面の総合的指導を重視し、博士号申請に関わる論文と作品との審査に直結する演習とします。	<p>教授 大井 健二</p> <p>教授 関村 誠</p> <p>准教授 加治屋健司</p>
		理論系 創造とは何か、創造はいかにして可能か、これらについての思索を拡げ、「歴史」や「現代」に迫り、「他者」を発見し「私」のある、そのような論文執筆の指導を行います。 古典美学から現代美学に至る思想の流れを踏まえて、現代における造形芸術の創造的製作に関わる理論の問題について、その「基礎論」を固めるべく指導します。 美術史（とりわけ現代美術）の言説に幅広く接することによって、各自が論文を書く際に、それぞれの問題関心を分析的に捉え、的確に表現できるようにすることを目指します。	教授 大井 健二 教授 関村 誠 准教授 加治屋健司
		絵画領域 日本画研究 学生の研究志向に応じ、技法及び材料の理解と表現の分析、テーマの選定に関し指導します。	教授 倉島 重友 教授 西田 俊英 教授 藁谷 実 教授 北田 克己 准教授 佐々木 正
油絵研究 学生の研究志向に応じ、テーマの設定に関して指導し、油絵の創作研究と理論研究の両面で問題関心の探求を行います。		教授 堀 研 教授 友安 一成 教授 吉井 章 教授 大矢 英雄 准教授 森永 昌司	
彫刻領域 彫刻研究 作品の創作、研究の過程で培った彫刻理論と美学及び芸術学・美術史における理論の両面を踏まえ、より深い彫刻芸術を探究します。		教授 前川 義春 教授 伊東 敏光 着任予定教員	
造形計画領域 デザイン研究 高度なデザイン分野における表現研究を深め、博士号申請に関わる、創造的製作研究と理論研究との二つの面から総合的指導を行います。	教授 大井 健次 教授 服部 等作 教授 中嶋 健明 教授 及川 久男 准教授 鰐澤 達夫 准教授 柳 幸典 准教授 吉田 幸弘 准教授 笠原 浩		
工芸研究 実材系分野である工芸において各々の創作表現研究を探索するとともに、作品の理論研究も指導し、作品と理論の二つの面での総合的な指導を行います。	教授 若山 裕昭 教授 藤本 哲夫 教授 南 昌伸 准教授 大塚 智嗣 准教授 永見 文人 准教授 倉内 啓		

授業科目の概要および担当教員については、平成21年度予定のものです。専任教員のうち教授のみ主指導教員になれます。

大学院生の研究活動紹介



日本画模写

博士前期課程・日本画研究(古典研究)では、日本画制作と古典作品の研究に取り組んでおり、本学芸術資料館収蔵作品をはじめ、高松塚古墳壁画、法隆寺金堂壁画等の模写を進めている。古典作品の模写は、日本画を学ぶ方法として永く行われており、優れた文化財の表現・技法・材料の研究は、日本画制作の糧となっている。写真は、本学芸術資料館所蔵の室町時代に描かれた「羅刹天像」の模写に取り組んでいる様子。現在、原寸写真から線描きや色彩の形を写し取り、原本を見ながら古色染めをした絵絹に彩色をすることで、より高度な模写を目指している。また卒業生により県内文化財、インド・アジャンタ壁画の模写にも取り組んでいる。

(関連専攻：絵画・総合造形芸術)



「光の肖像」展 -被爆者たち、それを受け継ぐ者たちの眼差し-

会期：第一回展：2005年8月1日～8月14日 会場：広島市立大学芸術資料館
第二回展：2006年7月31日～8月9日 〃
第三回展：2008年7月31日～8月10日 〃

第12回平和美術展「光の肖像展1・2」

会期：2008年8月1日～8月24日 会場：はつかいち美術ギャラリー

直接の被爆の苦しみを受けた方のみならず、胎内被爆の方、被災後の放射能に汚染された方、そしてその血を受け継ぐ子孫の方々の「肖像」を描き残すことを通して絵画による被爆体験の継承を行うプロジェクト。油彩による表現には、その根本的な命題として「人間とは何か」という問いが内包されている。被爆者の肖像を描くことによって被爆体験の継承とともに「描く行為」の根源的な問いかけに自らをさらし黙考することに繋がった。

(関連専攻：絵画・総合造形芸術)



大塚かぐや姫プロジェクト(2006～2008)

会期：2007年9月10日～9月29日(竹林整備・作品制作)
2007年10月1日～10月14日(作品展示・竹林一般公開)

会場：広島市安佐南区大塚地区の竹林

平成18年9月に、市立大学近くの竹林を学生と地域住民共同で間伐し、京都に見られるような美しい竹林を蘇らせた。また昨年平成19年夏には整備地域を拡大するとともに、竹林内に竹によるアート作品13点を制作した。鬱蒼とした竹林を間伐した後に光が差し込む光景は、日頃私たちが味わうことの出来ない自然の清々さと充実感を感じる体験であり、また竹林内のアート作品は、創造的で息づく竹林を演出している。このような身近な体験から「環境問題」や「創造すること」、また「生きること」をも皆で考える場としたい。ドイツ、韓国からの留学生も参加し、学生間の国際交流を行なうとともに、竹林内を1500個のキャンドルで照明し、篠笛演奏等を通して秋の夕べを楽しみながら、大学と地域の交流会を開催した。

(関連：総合造形芸術・彫刻・立体造形・金属造形・漆造形)



広島市立大学と韓国・漢陽(ハンヤン)大学との国際交流展 『日・漢金属造形交流展』

期間：(日本展)平成18年10月2日～10月10日

会場：広島市まちづくり市民交流プラザギャラリー

期間：(韓国展)平成18年11月7日～11月17日

会場：ソウル ギャラリー Wooduk

留学生と学生の交流がきっかけとなって、韓国の漢陽大学と広島市立大学の共同開催による国際交流展に発展したものである。デザイン工芸学科金属造形分野と韓国、漢陽大学デザイン学部金属デザイン専攻の学生、教員の作品67点の展示と交流行事が両国に場所を移して行われた。同じ様な専門性を持つ教育機関でありながら、展示を通して両大学間にみられる志向、作品性の違いが明確に表出し、両国の学生、教員にとっても興味深いものとなり、両国の相互理解にも繋がるものとなった。

(関連専攻：金属造形・造形計画・総合造形芸術)



CAMP・ベルリン Hiroshima Art Project 2008

会期：2008年2月2日～10日

会場：旧ベルリン市交通局中央整備工場

CAMPベルリンは、日本とドイツの若手アーティストによる文化交流プロジェクトです。グローバルに活躍する招待作家に加えて、広島市立大学芸術学部とベルリン・ヴァイセンゼー美術大学を中心とした若手作家31組が参加しました。プロジェクトのテーマであるmigration(マイグレーション)は、広島とベルリン双方の社会形成に大きな役割を果たしてきました。両都市とも、異なる時代に渡って、多数の移民を生み出し、また、受け入れてきました。近代以降、広島から北米・南米、ハワイへの移民が多く出ています。また、今日、広島には、国際平和文化都市として様々な国から来た在住者がいます。この展覧会は、こうした歴史的な背景のなかで国境を越えて活動するアーティストの現代的な経験を反映させようとするものです。

(関連専攻：造形計画・現代表現)

芸術学部

Faculty of Art

F A C U L T Y
F A C U L T Y
C
A R T
F
A R T

芸術学部の構成

学科	専攻	募集定員			詳細
美術学科	日本画専攻	10人			P.15
	油絵専攻	20人			
	彫刻専攻	10人			
学科	募集定員		領域	分野	詳細
デザイン工芸学科	40人		現代表現領域	現代表現分野	P.16
			デザイン工芸領域	視覚造形分野	
				メディア造形分野	
				立体造形分野	
				金属造形分野	
				漆造形分野	
				染織造形分野	

教育方針

基礎美学を重視した実技主体の教育が芸術学部の特徴です。

芸術は、自由な精神を土台として、人間性を表現する人間そのものの行為です。

これまで、ともすれば直接経済活動とは結びつかない特殊な領域とされてきた芸術が、いま、現代社会において、科学技術、経済、政治などの社会活動全般にわたり感性と人間性を豊かにする社会的行為として、期待されるようになってきました。

芸術学部は、このような現代社会における芸術の役割を認識し、広範な活動領域で持続的な創作活動を行うことのできる人材を養成します。実技主体の学部として、基礎実技を重視した教育研究を行うとともに、学科や専攻にとらわれず、多様な表現技法を修得できるように、多角

的な学習を行います。また、国際的な視野の下に教育研究を推進するため、異文化理解などを重視した教育を行うとともに、国際関係論や情報処理など、3学部の連携による幅広い教養教育を基礎に美術教育を行います。

古美術研究演習

3年次の後期に、油絵専攻ではイタリア、日本画専攻・彫刻専攻、ならびにデザイン工芸学科は京都・奈良への古美術研究旅行を行います。イタリアではフィレンツェ・ローマ・ミラノなどの美術館を訪れ、地域や時代によって異なる絵画技法や材料を考察し、ルネサンス期を中心に西洋絵画のルーツを探ります。

取得可能な資格

- ・ 中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）
- ・ 高等学校教諭一種免許状（工芸）
- ・ 博物館、美術館などの学芸員

開設専門基礎科目

1年次	2年次	3年次	4年次
美術解剖学	図法及び製図	美学	造形応用研究
デザイン概論	西洋美術史	日本美術史	
工芸概論	材料技法演習	東洋美術史	
油彩画材料論	総合演習 C	西洋美術史特論	
油絵入門	工芸制作 I・II	文化財学研究	
日本画入門	造形応用研究	彫刻論	
現代美術演習 I	芸術工学	造形応用研究	
	工芸材料概説		
	写真（映像）概論		
	現代美術論		
	版画制作演習		
	絵画論		
	デザインと文化		
	現代美術演習 II		
	アート・マネジメント概論		
	現代美術史		

専門基礎科目名は、平成 20 年 4 月現在のものです。

美術学科

Fine Arts

確実な基礎技法の上に表現力が花開く。個性と技術が作家活動につながります。

教育研究内容

美術学科は純粋アートの制作を学ぶ学科です。ものの見方、形のとらえ方といった基礎力をしっかり磨き、そのうえで、日本画、油絵、彫刻の3つの専攻それぞれの技法を修得し、自分ならではの表現を追求していきます。1年次から各専攻ごとに実習に力を入れ、手の動きを積み重ねるなかから、確実な技法の修得をめざしていきませんが、あわせて、専攻にとらわれず、さまざまな素材を使った表現の可能性も追求していきます。

開設専攻

専攻	内容	担当教員
日本画専攻	基本的実技を通して、日本画における材料の基礎的な理解及び個性的な造形感覚を進展させます。1～3年次で幅広く課題を経験するとともに、絹本を使用した制作、箔講義、裏うち講義や古典作品の模写を通してさまざまな技法も学ぶことにより、絵画表現に幅をもたせ、4年次の卒業制作に備えます。	教授 倉島 重友
		教授 西田 俊英
		教授 藁谷 実
		教授 北田 克己
		准教授 佐々木 正
油絵専攻	基本的実技を通して、1～3年次でデッサンと油絵の基礎的な技法及び材料について学びます。また、西洋画の絵画構造について版画などを含めて造形基盤について研究します。3年次以降は、各自の造形感覚を養いつつ、大作を手がけて4年次の卒業制作に向かいます。	教授 堀 研
		教授 友安 一成
		教授 吉井 章
		教授 大矢 英雄
		准教授 森永 昌司
助教 松尾真由美		
彫刻専攻	4年間を通して、彫刻の基礎となる塑造を中心に制作を重ねます。人体をモデルとして、自然から彫刻芸術の基礎を学び、併せて東洋・西洋の古典を学習しながら、自らの創造基盤を作り上げます。1、2年次には、木・石・金属などの実材彫刻の基礎を学習し、3年次以降は、自由な制作活動の中から自己表現の方法を学びます。	教授 前川 義春
		教授 伊東 敏光
		助教 秋山 隆
		助教 梶原 正朗

美術学科専門科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
日本画専攻 専門科目	日本画実習Ⅰ	日本画実習Ⅱ	日本画実習Ⅲ	日本画実習Ⅳ
	デッサン実習Ⅰ	デッサン実習Ⅱ	古美術研究（演習）	絵画論演習
	構成実習Ⅰ（平面）	構成実習Ⅱ（平面）	材料論演習Ⅲ（金属材料）	特別演習（裏打技法）
	材料論演習Ⅰ・Ⅱ	彫刻	デッサン実習Ⅲ	卒業制作
		構成実習Ⅲ（平面）		
		学外演習		
油絵専攻 専門科目	油絵実習Ⅰ A・B	油絵実習Ⅱ A・B	学外演習	油絵実習Ⅳ A・B
	デッサン実習Ⅰ	デッサン実習Ⅱ	油絵実習Ⅲ A・B	卒業制作 A・B
	構成実習Ⅰ（平面）	構成実習Ⅱ（平面）	古美術研究（演習）	
	彫刻	版画制作実習Ⅱ	デッサン実習Ⅲ	
	版画制作実習Ⅰ	油絵材料・技法演習（古典技法）	構成実習Ⅲ（平面）	
彫刻専攻 専門科目	1年次	2年次	3年次	4年次
	彫刻実習Ⅰ	彫刻実習Ⅱ	彫刻実習Ⅲ	彫刻実習Ⅳ
	構成実習Ⅰ（平面）	デッサン実習Ⅱ	古美術研究（演習）	卒業制作
	デッサン実習Ⅰ	実材制作実習Ⅰ	実材制作実習Ⅱ	
	実材制作基礎実習（工芸制作を含む）	構成実習Ⅱ（平面・立体）	彫刻論演習（古典研究を含む）	
		構成実習Ⅲ（立体）		
		デッサン実習Ⅲ		

担当教員および専門科目については、平成20年7月現在のものです。

デザイン工芸学科

Design and Industrial Arts

日常のなかにも、クリエイティビティを発揮できる場所がある。

教育研究内容

生活に関する造形芸術としてのデザイン及び工芸の総合的な教育研究を目的として、基礎的な表現力と技術を重視するとともに、既成の分野にとらわれず、多様な素材を体感し、広範な活動領域の中で十分に対応できる、創造性のある幅広い表現法の展開を可能とする教育を行います。1年次にデザイン・工芸の基礎実技教育を行い、幅広い表現方法を修得させ、2～4年次で各専門分野に分かれて、課題制作や卒業制作に備えます。

開設分野

	分野	内容	担当教員
現代表現領域	現代表現分野	先端的表現領域におけるアーティストの育成に加えて、キュレーションを含めた理論的思考ができる人材の育成を目指し、実践的な国内外での展覧会の企画と運営により、アートに関わる総合的なマネジメントの能力を身につけます。	教授 大井 健次 准教授 鰐澤 達夫 准教授 柳 幸典 准教授 加治屋健司
デザイン工芸領域	視覚造形分野	ビジュアルコミュニケーションデザインの基本となる日本の墨や毛筆、西洋古典の模写を通じて技法と感性を知り、コンピュータを使ったCGやDTPへの展開等を修得。イラストレーションやグラフィックデザイン等多岐にわたるメディアへの応用に取り組みます。	教授 及川 久男 (兼任) 教授 大井 健次
	メディア造形分野	本学の高度に整備されたコンピュータ環境を生かし、多彩なメディアを用いて、五感全てに訴えかける芸術表現の可能性の探究を目的に、コンピュータグラフィックスやヴァーチャルリアリティーなどの映像表現を核に実習を行います。	教授 中嶋 健明 准教授 笠原 浩
	立体造形分野	生活空間における人—モノ—情報環境の関係を考察し、計画から実際の制作を通じて、機能や素材と構造の関係を学びます。制作にあたっては芸術資料館の収蔵資料で情報収集・活用・蓄積を行い、各専門工房（金属・木工・染織・塗装・CGラボ等）の有機的活用をはかります。	教授 服部 等作 准教授 吉田 幸弘
	金属造形分野	人類が金属素材に出会って以来、金属の可能性の探究は、弛みなく行われてきました。今では数多くの金属素材が開発され、現代生活に欠かすことのできない素材となっています。彫金、鍛金、鍍金といった、金属工芸の基盤となる伝統技法と金属素材について学びながら、金属造形の新たな可能性と独自の表現をめざします。	教授 若山 裕昭 教授 南 昌伸 准教授 永見 文人
	漆造形分野	漆の造形には、木、金属、布等、様々な素材の認識と技術の習得が必要です。深く追求することで多様な知識と必然性を学び、自由な自己表現をめざします。	准教授 大塚 智嗣
	染織造形分野	染織工芸は古来から生活用品としてそれぞれの時代の文化の証です。日本独自の多様な技法と感性の蓄積を今一度見つめ直し、現代社会における染・織・繊維造形のあり方を広い視点から捉え、手仕事による独自の作品に取り組みます。	教授 藤本 哲夫 准教授 倉内 啓

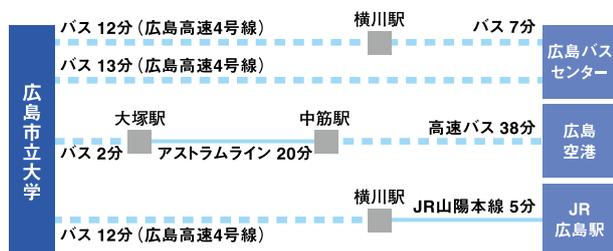
デザイン工芸学科専門科目

1年次	2年次	3年次	4年次
造形実習Ⅰ A・B	総合表現研究(演習)	テーマ研究(演習)	造形実習Ⅳ
描出実習Ⅰ	描出実習Ⅱ	古典研究(古美研旅行含む)	卒業制作
形体実習Ⅰ	造形実習Ⅱ A・B 形体実習Ⅱ	造形実習Ⅲ A・B	

担当教員および専門科目名については、平成20年7月現在のものです。

芸術学部・芸術学研究科の施設

芸術学部棟	日本画アトリエ	模写室
	油絵アトリエ	フレスコ実習室
	彫刻アトリエ	造形計画アトリエ
	VRスタジオ	CGラボラトリー
第1工房棟	版画工房	漆工房
	染工房	織工房
	3D工房	メディア造形工房
	CA+Tラボラトリー	
第2工房棟	木彫工房	石彫工房
第3工房棟	木工機械室	金属工房
	金工機械室	
第4工房棟	プラスチック塗装工房	彫金工房
	鍛造工房	鍛金工房





広島市立大学大学院

国際学研究科 情報科学研究科 芸術学研究科

入試に関するお問い合わせ先

広島市立大学事務局入試担当

Phone 082・830・1503

nyushi@office.hiroshima-cu.ac.jp

編集発行 広島市立大学広報委員会

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

Phone 082・830・1500 (代) Fax. 082・830・1656

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/>

発行日 平成20年7月31日

印刷 株式会社インパルスコーポレーション

登録番号 広W0-2008-101



古紙/リサイクル配合率100%再生紙を使用しています